



向陽生の絶えない探究心とその技術の奥深さ

昨年度10月にダートフォードグラマースクールの生徒との国際交流の一環で和紙の発表を行った環境科学科2年生の金子裕さん、林将真さん、川島碧生さん、由良心希さんは、交流後も自主的に探究活動を続けています。5月10日（土）、香港のMan Kwan Pak Kau Collegeが

「Let students talk about Education（教育について語り合おう）」と題した国際会議を主催しました。「地域の無形文化遺産の危機と保存」というテーマについて、世界12カ国から参加した高校生41チームがパワーポイントで英語発表を行いました。本校からは2チームがオンラ



インで出場しました。和紙班の4名は、授業で行った探究活動をさらに深め、英語で「高野紙」について発表し、優れたプレゼンテーション(Outstanding Presentations Exchange)の1つに選ばれました。

その後、9月下旬にMan Kwan Pak Kau Collegeから各生徒に表彰状とチームに楯を送っていただきました。

また、10月21日（火）に実施した「高野山研修」では、和紙班の内3名が高野紙に関する研修を受けました。高野町教育委員会の職員で、現在でも定期的に高野紙を漉いている飯野さんから、昭和初期に出版された「高野紙」に関する本を見せていただいたり、高野山で

採取したススキで作った萱簀（かやす）を使った独特な製法を教えていただいたり、萱簀作りの一部を体験させていただいたりしました。専門的な知識と経験をお持ちの飯野さんから、高野紙の歴史的研究や漉き方の研究の一部を垣間見ることができました。

国際会議では、「地域の無形文化遺産の危機や保存」に関する答えは、その地域の社会的、文化的、政治的な要素が関わっていることを学びましたが、今回の研修では、幅広く多くの方に無形文化遺産を知ってもらうだけでなく、その本当の価値を分かろうとする方に焦点をあてた保全の仕方や普及活動の在り方を学ぶことができました。



授業で学んだことや体験したことから、さらに探究心が芽生え、新たな課題に対し自主的に研究を継続し、国際会議で発表を行ったこの一連の流れと熱量は、今後のSSHにおける探究活動がより発展的な展開を行えることを示唆する取組の好例になればよいと考えます。

■SSH先端科学講座（政治経済）を実施しました！

10月23日（木）、普通科2年生文系選択生を対象に「SSH先端科学講座（政治経済）」を実施しました。「日本青年会議所主権者意識向上委員会」協力団体や大学生の方を外部講師として招聘し、「主権者意識向上カリキュラム」と題して授業を行っていただきました。

